

議事録

作井技術委員会 事務局

平成 25 年度 第 4 回運営幹事会

開催日時：平成 26 年 1 月 28 日（火） 15：30～17：30

開催場所：国際石油開発帝石（株）32 階応接 05 会議室

出席者：池田、浦野、田村、石井、武村、日野、原田、福嶋（直）、佐藤、長縄、菅野（博）、古谷、福島（睦）、豊田（出席 14 名）

議題 1：報告事項

1) 大水深掘削技術分科会：古谷座長

➤ 分科会活動は特になし。大水深の定義が曖昧になってきているので、調査中。

2) HSQE 分科会：福嶋座長

➤ 分科会活動は特になし。

3) 協会ホームページ委員会：浦野委員

➤ 協会ホームページへのアクセス解析を JDC 長久保委員が実施。2 月、6 月にアクセスが多いのは春季講演会絡み。「非在来型」など、世間をにぎわせている用語の検索からのアクセスが多かった。もっとも多い閲覧先は石油開発 ABC だったので、その内容を再確認する必要があるかもしれないとのこと。

4) 協会理事会・幹事会：池田理事

➤ 理事会の報告事項なし。

作井技術委員会の委員数の検討（添付資料参照）

➤ 浦野幹事が代理出席した 12 月の評議員会において、作井技術委員会の委員数削減の検討依頼があったため、運営幹事会にて検討を実施。検討依頼の主な理由は、他の委員会とのバランスを考慮の模様。運営幹事会にて検討した結果、(1)作井部門はサービス会社や鋼管会社など幅広い企業との関連が深い、(2)遠方の大学は委員会への参加は難しいが、業界の動向をお知らせする価値はある、(3)情報交換という目的から削減するメリットはなく、その必要性もない、(4)INPEX が幹事会社を務めている期間は、委員会への参加をお願いした手前、脱会をお願いするのは難しい、との意見が挙げられた。当面は現状維持で、委員会を運営する。

➤ 作井技術委員長、幹事会社は来年度交代予定なので、本件再確認した上で新しい委員会体制を組織することとする。その参考として、現幹事会社が他の委員会はどのような基準でメンバー構成を決めているか聴取を行う。

5) 80 周年記念出版委員会：池田委員

➤ 委員会の活動なし。春季講演会では販売できるよう準備中とのこと。

議題 2：平成 26 年度春季講演会準備

1) 趣意書案検討（添付資料参照）

- 趣意書案は添付の通りに修正。

2) 作井部門シンポジウムの実施方法の検討（添付資料参照）

- シンポジウムの実施方法について、12 月に HSQE 分科会福島座長、MOECO 菅野幹事、INPEX 運営幹事により作成された素案の説明が行われた。
 - シンポジウムの流れに関しては、概ね合意が得られ、各部の担当は添付資料の通りとした。各部のタイトルに関しては、担当する会社にて検討することとした。
 - 今後の準備作業の流れは、以下の予定で行う。
 - 2 月末に「政府・監督局の分析結果」作成の進捗確認（中間報告、原稿はパワー形式でよい）
 - 3 月末までに担当の上記および「私ならこうする」資料を完成
 - 4 月上旬に運営幹事によるチェック
 - 4 月末までに要旨集の原稿作成：イントロダクションとして事故の全容と、各部の討議内容。（発言しなかったが）執筆内容と執筆担当は 2 月末に再検討したい。
 - 5 月の連休明けに、全作井技術委員へ資料を配信し、「私ならこうする」パートでの意見を募集するとともに、シンポジウムで会場からの発言も願います。
 - 6 月 4 日シンポジウム本番
 - 資料作成の参考文献としては、BOEMRE レポート、オバマレポート（両レポートに関しては HSQE 分科会による和訳版あり）、DNV による BOP 調査レポートに限定し、全員が同じ分析結果に基づくこととする。
 - SEC の大水深海底鉱山保安対策調査委員会にて、各国の法規制調査を行っているため、調査結果をシンポジウム第五部でお話しいただけないか打診する。
- ### 3) 個人講演の割当て等
- 昨年の個人講演は 1 日に 18 件行われた。現在のところ、JAPEX 2 件、TELNITE 2 件、JDC/MQJ 2-3 件、東大/JOGMEC 1 件、INPEX 2 件の他、学生から 3-4 件ほど講演を出せるのではないかとのこと。
 - 事務局から作井技術委員会のメンバーへ個人講演の申込に関して案内のメールをする。

議題 3：懸案事項

1) 第 2 回作井技術委員会での特別講演の決定

「失敗学」についての講演依頼状況（添付資料参照）

- 失敗学の講演で決定。題材としては、化学爆発が良いのではないかと意見が多かった。日程は 3 月 24 日 or 25 日で、講師に打診する。
- ### 2) 次回の異業種情報交換会についての検討（添付資料参照）
- 異業種に開発を望む新しい素材や機器について、石油開発会社からの要望を紹介。前

回の交流会参加企業の他、JOGMECをはじめ、作井技術委員会全員（含鋼管会社）に声を掛け、早期開催を目標に調整を進める。

懇親会

- INPEX 34F 社員クラブにて実施。

以上

平成26年度 春季講演会プログラム(案)

6月4日(水) 作井部門 シンポジウム

「メキシコ湾原油流出事故の総括 ～こうして事故を防ぐ～」

世話人：池田正市, 浦野 剛, 田村満夫(国際帝石), 石井美孝, 武村 貢, 日野智之(石油資源), 原田敏雄(JDC), 福嶋直哉(出光O&G), 佐藤 敬(テルナイト), 長縄成実(東大・工), 菅野博仁(三井石開), 古谷昭人(MQJ), 福嶋睦夫(JDC), 豊田佳祐(国際帝石)

趣意：(別紙)

9:00～9:10	10分	開会の辞	池田委員長(国際帝石)	司会者
9:10～9:20	10分	【イントロダクション】事故の全体像紹介と本日の進め方	担当: 国際帝石	
9:20～10:30	(第一部) ケーシングデザインとセメンチング作業の問題		担当: 出光O&G	
	40分	【政府・監督局の分析結果】 実際に降下したケーシング(フルストリング)とセメンチング作業経緯(オートフィルアップFS、窒素セメント、ラボテストの行き違い、CBLを実施しなかったことなど)		
	30分	【私ならこうする】本邦各社の検討結果の紹介と討議		
10:30～11:50	(第二部) ネガティブ圧力テストの問題		担当: 石油資源	
	50分	【政府・監督局の分析結果】実際に行われた廃坑手順 ・当初計画に手順がなく、リスクアセスメントも実施せず ・坑内プラグなしでDP内とWH下を海水に入れ替えてネガティブ圧力テストを実施した ・入れ替えスパーサーにハイビスLCMを流用した ・異常な圧力となるも、曲解して成功と判断した		
	30分	【私ならこうする】本邦各社の検討結果の紹介と討議		
昼食 (70分)				
13:00～14:20	(第三部) ライザー内海水入れ替え作業の問題		担当: 石油資源	
	50分	【政府・監督局の分析結果】 ・SBM泥水をポートにバックロードしながら行ったため、泥水ピットの増減が把握できなかった ・TPやADが泥水ポンプの異常で持ち場を離れた ・フローに気づき、マッドガスセパレータへ排出した		
	30分	【私ならこうする】本邦各社の検討結果の紹介と討議		
休憩 (20分)				
14:40～15:50	(第四部) サブシーBOPとその制御システムの問題		担当: JDC/MQJ	
	40分	【政府・監督局の分析結果】 当時のBOPの構成と作業員が行ったシャットイン手順、およびBSRを閉止しても坑井を密閉できなかった原因(回収したBOPの調査結果)などを紹介する		
	30分	【私ならこうする】本邦各社の検討結果の紹介と討議		
15:50～16:40	(第五部) 法規制と対策強化の動き		担当: 国際帝石	
	30分	【再発防止に向けた法整備】 米監督局の法改正、欧州など各国の対応、API規格		
	20分	【再発した場合の対策強化】 キャッピングシステムや、MWCCなどの流出原油回収サービスの現状		
16:40～17:00	20分	まとめ	担当: 国際帝石	